

登録コード:MH315200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	理学療法治療法【20MJ以降】 Treatment Approach in Physical Therapy		
担当教員	百瀬 公人 小宅 一彰		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/2年 後期(後半) 水曜・1時限 水曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	理学療法の基本的な技術に関する原理の理解および手技の実施ができる。
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	理学療法の基本的な技術に関する原理の理解および手技の実施ができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、理学療法の基本的な手技である関節可動域運動、レジスタンストレーニング、マッサージ、動作支援などの考え方と実施上の要点を系統的に理解できることを目指します。また、実践的な技能の修得も図ります。 本授業では、1年次の「解剖学」、「生理学」、「運動療法基礎論」の知識を前提に学ぶこととなります。また2年後期の「理学療法評価法実習」の内容と相補的に学んでいくこととなります。そして本授業の内容は3年次で学ぶ「疾患別別理学療法」、ならびに「臨床基礎実習」、4年次に学ぶ「臨床実習」における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を生かして講義を行います。		
授業計画	第1回 (12月2日) オリエンテーション・概論 (小宅) 第2回 (12月9日) リスク管理 (小宅) 第3回 (12月16日) 関節可動域 (小宅) 第4回 (12月23日) 関節可動域 (小宅) 第5回 (1月6日) 筋トレ (百瀬) 第6回 (1月13日) 動作支援 (百瀬) 第7回 (1月20日) 動作支援 (百瀬)・授業アンケート 第8回 (1月27日) 試験		
授業の進め方	各種治療法の基本的な考え方、実施上の要点について講義で学んだ後に、学生同士で実際に行いながら実技の修得およびグループワークを含めた演習を行います。		
テキスト、教材、参考書	授業資料は事前に配布します。その他に関しては、授業の中で紹介します。		
成績評価の方法	期末試験：40%、課題成果60%の割合で成績評価を行います。		
成績評価の基準	課題、期末試験の結果をもとに、次の基準で評価します。 秀(90-100点)：授業の達成目標水準から見て卓越している 複雑な応用問題が解ける 優(80-89点)：授業の達成目標水準よりかなり上にある 簡単な応用問題が解ける 良(70-79点)：授業の達成目標水準よりやや上にある 応用知識がある 可(60-69点)：授業の達成目標水準にある 基礎知識がある 不可(0-59点)：授業の達成目標水準より下にある 基礎知識がない		
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には90時間時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(4時間×15回)＋自己学習時間30時間(2時間×15回)＝90時間 【事前学習について】 授業資料は事前に配布しておくので、授業で行われるグループディスカッションに主体的に参加できるよう、わからない点は各自で調べておく(2時間10回) 【事後学習について】 グループでの課題の発表は全員が何らかの役割を割り振られるよう配慮するとともに、フィードバックをお互いに行い、最終的にレポートとしてまとめる(2時間×5回)		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実技演習を行いますので、動きやすい服装とする。 質問・相談への対応：百瀬 公人 オフィスアワーとメールアドレス： 研究室は南校舎4階です。月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp		